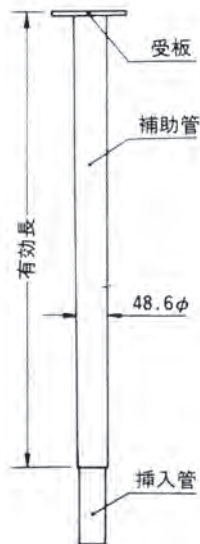


CD型パイプサポート

CDサポートの種類と寸法

型式	調節長		総重量kg
	Lmax ^{mm}	Lmin ^{mm}	
CD06	613	400	4.8
CD09	1008	600	7.9
// 14	1520	900	8.6
// 21	2000	1206	9.9
// 30	3199	1834	13.5
// 34	3486	2121	14.2
// 39	3941	2576	15.3



CDC型補助サポート

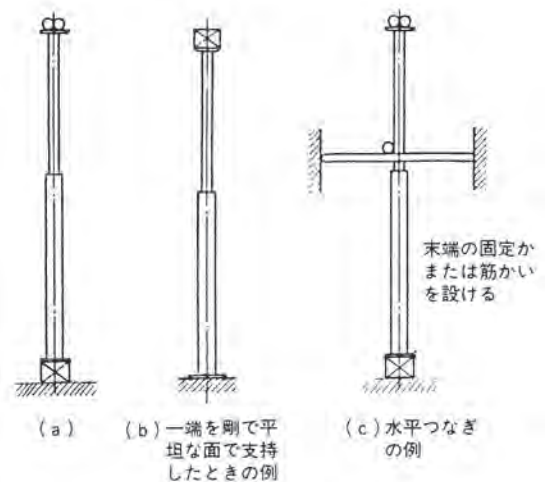
補助サポート

型式	有効長	単重kg
CDC-09	900	4.1
CDC-12	1200	4.9
CDC-15	1500	5.5

根がらみクランプ (60.5φ×48.6φ)
 直交 CD-4860 (0.9kg)
 自在 CD-4860U (0.9kg)



施工時の材端条件



パイプサポートの許容支持力 (単位: kN)

材端条件	連けい有り (c)	連けい無し			
		使用高さ (m)			
		2以下	2~2.5	2.5~3	3~3.4
上下端 木材等 (a)	19.6	19.6	17.6	13.7	9.8
上端 木材					
下端 仕上げ (b)	19.6	19.6	18.6	16.7	14.7
コンクリート					

(注) 上表中、「連けい有り」とは、パイプサポートについて高さ2m以内ごとに水平2方向より水平つなぎを緊結金具で取り付けることをいう。

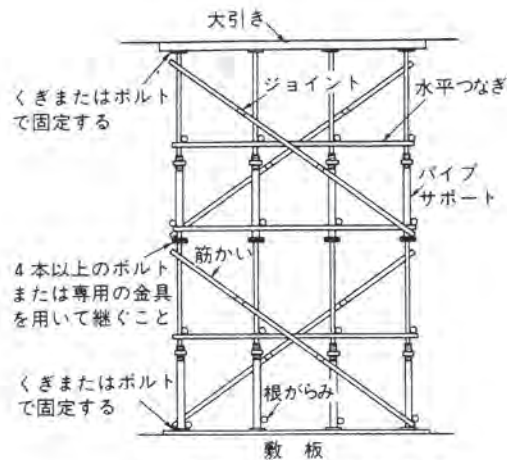
3.5m以上の場合は必ず2m以内ごとに水平つなぎを直角方向に設け、つなぎの変位を防止して下さい。

この場合、許容荷重は19.6kNとなります。

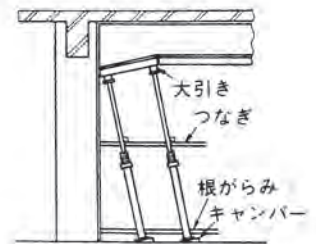
※補助サポート使用時は7.35kN/本 限度で扱って下さい。

■施工上の注意事項と施工例

1. サポート上下の固定は受板、台板に設けられているボルト穴で、くぎを用いて大引きおよび敷角に止めて下さい。
2. パイプサポートの継ぎたしは2本までとし、3本以上継いで使用しないで下さい。
3. パイプサポートまたは補助サポートを継いで用いるときは、ボルト式では径に見合ったボルトで必ず4箇所緊結し、差し式では確実に根元まで差し込んで下さい。
4. パイプサポートには、必要により筋かいなどを取り付けて安定性を増大させて下さい。
5. パイプサポートの高さが3.5mをこえる場合には、次のように水平つなぎを設けて下さい。
 - ①水平つなぎ材は、鋼製のものを用いて下さい。
 - ②高さ2m以内ごとに水平つなぎを2方向に設け、かつ水平つなぎの変位を防止する措置を講じます。(水平つなぎの末端を突きつけるか、堅固なものがないときは、筋かいを併用して下さい。)
 - ③水平つなぎとパイプサポートの緊結は、専用の緊結金具(クランプ)を使用して下さい。
6. 上下のサポートの間に敷板または大引きなどをはさんで段状に組み立てる場合は、次のような措置が必要です。
 - ①上下の各サポートはできるだけ鉛直になるように、また中心をそろえて設置します。
 - ②敷板、大引きは2段以上はさまないで下さい。(3段以上の段組みの禁止。)
 - ③敷板、大引きを継いで用いるときは、あて板を用いて連結し、かつ継手の位置はそろえないようにします。
7. 階段、はりのハンチなどの部分で、パイプサポートを斜めにして建て込む必要がある場合には、サポートの頭部または脚部にキャンバーを用い、かつ根がらみなどを取り付けて安定させて下さい。
8. 高さ7m以上(パイプサポートの2本継ぎをこえる長さ)の支保工を必要とする場合は、原則としてサポート1本分の高さを残して、わく組その他によって構台を組み、その上にパイプサポートを設置します。
9. ハンドルをハンマー等で叩かないようにして下さい。破損の原因になります。



パイプサポートを継いで使用する例



偏芯荷重を受ける場合の例